

## 誤用例文からみる「把字文」の教授法について

西川和男

### I はじめに

中国語をどのように教えれば、学習者によりはやく、正確に理解させることができるかを、教師は常に追及している。

例えば、「名詞述語文」を説明する場合、

『本籍地、出生地を言う場合は、「他北京人。」と「是」を省略できる。』

と説明するだけで、初学者にすぐに理解させることができるであろうか。それだけでなく、さらに「○他北京人。」と「×他外国人。」を提示し、

『前者は本籍、出生地を言っているので言えるが、後者はそれを言っているわけではないから言えない。』

と、誤用例を提示して説明すれば、より理解がはやいことは言うまでもないことである。しかし、いつもこのような誤用例を提示できればよいのだが、実力・経験・資料不足等でなかなか適切な誤用例が考え出せずに、そのままやり過ごす場合もある。また、誤用例を考え出せても、なぜ誤りなのかをうまく説明できずに苦勞することもある。

以上のようなとき非常に役立つのが、誤用分析を取り扱っている書である。最近、中国でも数種出版されている。このような書の誤用例は教師が机上で考えだしたものではなく、教授する過程において、実際に得られた数多くの誤用例の中から、その代表的なものを抽出したものであるので、教育の場でその誤用例を示すとき、非常に説得力を持つ資料となり得る。

本稿では、それらのうちから『現代漢語正誤辞典』（以下【辞】と略す<sup>1)</sup>）と『外国人学漢語語法偏誤分析』（以下【外】と略す<sup>2)</sup>）をとりあげ、両書からその‘豊富’な誤用例を抽出して、日本人学習者にとって非常に難しく、それゆえ教師にとっても教えるににくい「把字文」についての教授法を考える。

### II 「把字文」の教授法

まず、「把字文」を説明する場合、一般的にその成立条件として次の3点があげられる。

① 動詞のみの文は許されず、動詞の前後には、状語・助詞「了」「着」・補語・目

的語等がつくか、動詞をかさねる。

- ②「処置文」である以上、動詞は一般的に他動詞が用いられる。
- ③「把」の後の目的語は「特定されるもの」でなければならない。

## II-1 ①についての説明法とその誤用例文

### 【A】

なぜ、動詞のみの文は誤りになるのかという説明では、【外】に以下のような説明がなされているので参考になる。

特定の事物に対して、ある動作が加わることにより、その事物にある種の変化や結果が現れることを示すのが「把字文」である。(中略)、結果や変化をあらわそうとすれば、動詞の後にそれらを表す補語がなければならない。(中略)、その動作の方法を表そうとすれば、動詞述語の前にその意をしめす要素がなければならない。(p.135)

また、【外】(p.134)には、

収集した「把字文」の誤用例のうち、数が最も多かったのがこれら動詞のみの文である

と指摘されているので、以下に示す誤用例文をより多く提示し、学習者に注意を促さなければならない。

- |    |                    |                               |
|----|--------------------|-------------------------------|
| 1  | × 请你把这封信寄。         | (→ ~ 寄这封信。)                   |
| 2  | × 你把这辆车买吧。         | (→ ~ 买这辆车吧。)                  |
| 3  | × 我们要把很难的技术学。      | (→ ~ 学很难的技术。 ~ 学好。)           |
| 4  | × 你应该把自己的东西收拾。     | (→ ~ 收拾自己的东西。 ~ 收拾收拾。)        |
| 5  | × 他气愤地说：“我恨不得把他杀”。 | (→ ~ 杀他。 ~ 把他杀掉。)             |
| 6  | × 我们把这个困难的问题讨论吧。   | (→ ~ 讨论这个困难的问题吧。<br>~ 讨论讨论吧。) |
| 7  | × 我们应该把野生动物保护。     | (→ ~ 保护野生动物。 ~ 保护好。)          |
| 8  | × 又不是我把那件事做的。      | (→ 那件事又不是我做的。)                |
| 9  | × 我觉得很难用汉语把我的意思表达。 | (→ ~ 表达出来。)                   |
| 10 | × 他把自己的鼻子捂。        | (→ ~ 捂住。)                     |
| 11 | × 我想把中国人的风俗习惯研究。   | (→ ~ 研究中国人的习惯。)               |

### 【B】

「動詞＋補語」に関わる誤用例文

「把字文」で「動詞＋補語」を用いる場合、以下の【ア】、【イ】の面によく誤りが目立つので注意が必要である。

【ア】、「把字文」には「可能補語」を用いることができない。

- 12 ×我把这本书看得懂。 (→ ~能把这本书看懂。)
- 13 ×我一小时把这些练习做得完。 (→ ~能一小时把这些练习做完。)
- 14 ×我把你的箱子打得开。 (→ ~能把你的箱子打开。)
- 15 ×我把母亲的话永远忘不了。 (→ ~永远忘不了母亲的话。)
- 16 ×我把老师写的字看不懂。 (→ ~看不懂老师写的字。)
- 17 ×我把汉语课的作业做得完。 (→ ~做得完汉语课的作业。)
- 18 ×我把他的声音听得出来。 (→ 他的声音我听得出来。)
- 19 ×我把老师的话听不懂。 (→ ~听不懂老师的话。)

上記の誤用例文が成立しない理由は、【外】(p.143)によると、「可能補語は、一種の可能性を表しているのにたいして、「把字文」のほうは動作の実現によって、その目的語にある種の確かな結果や変化が生じることをあらわすのであるから、両者は両立しない。」と説明されている。

【イ】、「把字文」中にはよく「結果補語」や「様態補語」が用いられているので、一見すると成立するようにみえても、よく考えると成立しないものがある。

- 20 ×我们把酒喝得很高兴。 (→ ~喝酒喝得很高兴。)
- 21 ×我们把中文学得很努力。 (→ ~学中文学得很努力。)
- 22 ×他把练习做得很认真。 (→ ~做练习做得很认真。)

上記の誤用例文が成立しない理由は、【外】【辞】両書の説明を参考にすると以下のようになる。

「把字文」に用いられる補語は、目的語に何らかの影響を与えた結果を示すのであるから、その目的語にその結果何らかの結果があらわれるか、ある状態に変化させなければならない。ところが、上記誤用例文の場合は、目的語に対する結果、変化を表しているのではなく、主語に現れた変化についてのべている。

つまり、「我把衣服洗干净了。」では、「我把衣服洗了。」と「衣服干净了。」の2つの意味が含まれている。ところが、「×我们把中文学得很努力。」は決してそのような意味を持たず、「努力」の主語は「我们」であって、決して「中文」ではない。

さらに、上記とよく似た誤用例文として、以下のものがある。

- 23 ×我把饺子吃在五道口食堂。 (→ ~在五道口食堂吃饺子。)
- 24 ×我把水果买在回家的路上。 (→ ~在回家的路上买水果。)
- 25 ×上星期六，我把饭店住在东京的国际空港。 (→ ~在东京的国际空港住  
饭店。)
- 26 ×我和朋友把晚饭吃在饭馆。 (→ ~在饭馆吃晚饭。)

【外】(p.147)によると、上記のような誤用例文は、「対外漢語教育では、非常に有名で

典型的な誤りである。」と述べられているので、以下のような説明により、誤解を防がねばならない。

上記の文は全て、「我把行李放在宿舍。」と全く同じ形式をとって、問題がないように見える。しかし、「我把行李放在宿舍。」では、「宿舍」にはもともと「行李」はなく、「放」した結果はじめて「行李」が「宿舍」に存在することを表している。ところが、上記 23 では、「吃」した結果「饺子」を「五道口食堂」に存在させることは不可能である。なぜなら、「饺子」はもともとその食堂にあるからである。同じ形式でも、「我把饺子吃在肚子里。」が成立するのは、お腹の中にもともと「饺子」はなく、「吃」することによって「饺子」がお腹に存在できるからである。(p.147)

また、「動詞の単用は許されない」ことを説明するとき、さらにレベルの高いクラスでは、「ある一部分の2音節の動詞は、「把字文」において単用されても文は成立する。」ことを、まず「我要把汉语水平提高。」「你应当把问题澄清。」の文を提示して、それが成立する理由を考えさせることも必要である。そして、そのほかにも、

扩大, 缩小, 缩短, 延长, 说明, 证明, 降低, 改正, 打倒, 打破, 推动,  
分开, 充满, 减少, 抓紧

などがあり、これらの2音節の動詞はすべて「動詞+補語」によって構成されているので、「把字文」において単用しても成立することを説明しておかなければならない。

## II-2 ②についての説明法とその誤用例文

この条件においても、日本人にも誤用が目立つので、以下の誤用例文を参考にして、学習者に前もって誤用例文を提示することにより、誤解を防がねばならない。

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 27 × 风把我的自行车倒了。        | (→ ~ 吹倒了。 ~ 刮倒了。) |
| 28 × 我把刚买的杯子破了。        | (→ ~ 碰破了。 ~ 摔破了。) |
| 29 × 我把从昆明买回来的礼物坏了。    | (→ ~ 碰坏了。 ~ 摔坏了。) |
| 30 × 我把小李的自行车坏了。       | (→ ~ 撞坏了。)        |
| 31 × 妈妈把小杰心爱的小麻雀死了。    | (→ ~ 弄死了。)        |
| 32 × 到夜里十二点多, 我才把作业完了。 | (→ ~ 做完了。 ~ 写完了。) |
| 33 × 对不起, 我把你的申请书脏了。   | (→ ~ 弄脏了。)        |
| 34 × 老师, 请您把字大一点儿。     | (→ ~ 写大一点儿。)      |
| 35 × 你这一叫, 把那个孩子哭起来了。  | (→ ~ 孩子吓得哭起来了。)   |

上記の誤用例文の述語はすべて、自動詞や形容詞であり他動詞ではないことを確認させて、「他動詞+補語」の表現等に改めるよう指導する。

しかし、つぎにあげる誤用例文の動詞は他動詞であっても、「認知、心理活動、意志などを表す動詞」なので、これらの動詞は「把字文」には用いることができないことも指摘しておかなければならない。

- 36 ×我已经把那件事知道了。 (→ ~ 知道那件事了。)  
 37 ×老师把我的态度注意了一下。 (→ ~ 注意了一下我的态度。)  
 38 ×我把这个道理懂了。 (→ ~ 弄懂了。)  
 39 ×我把她以为是大学生呢。 (→ ~ 以为她是大学生呢。)  
 40 ×我妈妈把你送的那件工艺品喜欢得不得了。(→你送的那件工艺品我妈妈喜欢得不得了。)  
 41 ×你这样做，会把她生气的。 (→ ~ 会使 {叫・让} 她生气的。)

それぞれ、「動詞+目的語」等に改めるように指導する。また、上記 41 は「生气」自体が「動詞+目的語」からなる「離合動詞」なので特に注意させなければならない。

そして、「認知、心理活動、意志などを表す動詞」には、その他にも以下のような動詞があることも指摘しておかなければならない。

赞成，同意，同情，相信，要求，觉得，感到，希望，主张，愿意，热爱，担心，明白，看见，听见，爱

### II-3 ③についての説明法とその誤用例文

この項目の一般的な説明は、「○我把这本书买了。」と「×我把一本书买了。」の成立条件の違いが述べられるであろうが、さらに、「×我把一本书买了。」は成立しないが、「我把书买了。」はどうかを考えさせる。それにより、後者の場合の「书」が「特定できる」のであれば、後者の文は成立することを理解させる。このように説明すればより理解が深まると考える。

以下に、【辞】にあげられている誤用例文をしめす。

- 42 ×他把一件毛衣给我织了。 (→ ~ 给我织了一件毛衣。)  
 43 ×我只把一句话说，你就明白了。 (→ ~ 我只说一句话， ~)

### II-4 「把字文」における副詞の位置の説明法とその誤用例文

「把字文」において、否定詞を含む副詞の位置の誤りが多いことも、また強調しておかなければならない。

#### 【否定詞】

「否定詞」の位置に関わる誤用例文を、以下にあげる。

- 44 ×你把话不说清楚，别人怎么能明白呢？ (→ ~ 不把话说清楚， ~)  
 45 ×我把今天的课没预习好。 (→ ~ 没把今天的课预习好。)

- 46 × 把外国的东西不必直接照搬到中国来。 (→ 不必把外国的东西直接~)  
 47 × 我们把这次旅行的安排没有委托旅行社。 (→ ~ 没有把这次旅行的安排委托~)  
 48 × 你把方向没弄错吧。 (→ ~ 你没把方向弄错吧。)  
 49 × 你把这件事别告诉玛丽。 (→ ~ 别把这件事告诉玛丽。)

上記の誤用例文が成立しない理由を、【外】(p.142)では、以下の説明がされている。

動詞の行為によって、「把」の目的語を特別な状態に変化させるのであるから、その目的語に対して明確な説明を行えるだけで、その目的語に対してある状態にさせないとは言えない。(中略)「把字文」における述語動詞が「把」の目的語に加えられる影響は、積極的なものでなければならない。中国人は、「主語+把+目的語」という表現に接したとき、その後にくる動詞に対して心理的には肯定的なものを要求する。

しかし、そのすぐ後に、

「他把我不放在眼里。」のように、口語においては一部分、習慣的に許されるものもある。

とも述べられている。

この否定詞の位置に関する説明は、理論的にはその通りであろうが、日本人には以下の説明でとどめておいたほうが、よりわかりやすいと考える。

「中国語の語順は<修飾語+被修飾語>が原則である。従って、否定副詞が否定する領域は、その否定詞から後の部分になる。「×我把今天的课没预习好。」では、「没」は「预习好」を否定しているだけで、その前の「把今天的课」は否定していないことになる。だから、「把今天的课预习好」の前に「没」を置いて、「把今天的课预习好」全体を否定しなければならない。」

この誤りは、日本語の語形が「~を~しない」と、動詞の部分を否定することからくる母語の干渉によってもたらされることを強調することも、当然忘れてはならない。

#### 【助動詞】

また、「否定詞」と同類のものとして、「助動詞」の位置も同様に処理することにも注意を促さなければならない。以下に、その誤用例文をあげる。

- 50 × 今天晚上我把作业能做完。 (→ ~ 能把作业做完。)  
 51 × 你把这件事情可以做好吗? (→ ~ 可以把这件事情做好吗?)  
 52 × 我把床单应该洗一洗了。 (→ ~ 应该把床单洗一洗了。)

#### 【その他の副詞】

その他の副詞の位置の説明も、上記の<修飾語+被修飾語>の説明を行うことにより、誤解も少なくなるものとする。以下に、その誤用例文をあげる。

- 53 × 我明天把它一定修好。 (→ ~ 一定把它修好。)  
 54 × 我把这些书明天寄回国。 (→ ~ 明天把这些书寄回国。)

- 55 × 我把那篇作文终于写完了。 (→ ~ 终于把那篇作文写完了。)  
56 × 我今天把它才交给老师。 (→ ~ 才把它交给老师。)  
57 × 等发了生活费，我把钱再还给你。 (→ ~ 再把钱还给你。)  
58 × 他在考虑把问题怎样解决好。 (→ ~ 怎样把问题解决好。)

### III おわりに

以上、【外】、【辞】から日本人が犯しやすい誤用例文を抽出して、どのように説明すればよりわかりやすいかを検討してきた。上記の誤用例文すべて、教師達が実際の教育の現場から収集したものであるため、学習者の実態を把握する貴重なデータばかりである。

もちろん、学習者のレベルに応じてその内容に検討を加えていかなければならないことは言うまでもないことである。上記の文の中にはかなりレベルの高いものも含まれている。学習者のレベルに応じて、上記の誤用例文を参考にしてできるだけ多くの誤用例文を学習者に提示することにより、学習者の負担をすこしでも軽減していかなければならない。

### 注

1. 『現代漢語正誤辞典』 楊慶蕙主編 北京師範大学出版社 1993 年
2. 『外国人学漢語語法偏誤分析』 李大忠著 北京語言文化大学出版社 1996 年

### 参考文献

- 『現代漢語八百詞』 呂叔湘主編 商務印書館 1981 年  
『实用現代漢語語法』 劉月華等著 外語教学与研究出版社 1986 年

なお本稿は、平成 11 年度文学部共同研究による「語彙を中心とした中国・西洋間の文化交流に関する研究」の研究報告の一部をなすものである。

## 『或問』投稿規定

- 投稿資格は、近代東西言語文化接触研究会会員（入会は内田、又は沈まで）。
- 投稿論文は、原則として未公開の完全原稿とし、電子テキストとプリントアウトの両方を提出する。原稿は返却しない。
- 執筆者による校正は、二校までとする。
- 投稿論文は、本誌掲載後、他の論文集等の出版物への投稿を妨げない。
- 原稿作成に当たって、『或問』『執筆要領』を厳守する。
- 原稿料は支払わないが、雑誌を格安価格で提供する。

## 『或問』執筆要領

1. 使用言語は、日本語、英語、中国語とする。
2. 字数は、16,000字（400字詰め原稿用紙40枚）までとする。
3. 簡単な要旨（原稿と異なる言語による）を付する。
4. 投稿は、所定のフォーマットを用い、表などは極力避ける。フォーマットは、接触研のホームページにアップしてある。（<http://www1.fl.kansai-u.ac.jp>）
5. テンプレートを使用しない場合、テキストファイルの形で提出する。
6. 論文中に中国語などを混在させる場合、Windows は、微軟 PINYIN2.0（簡体字）、微軟新注音（繁体字）を用いること。
7. 注は、文末注を用い、文章の行中に（注1）のように番号を付ける。
8. 参考文献は、下記の体裁で文末注の後に付ける。

（単行本）

或問太郎 2000 『西学東漸の研究』大阪：しずみ書房

Adrian Bennett, 1967. *John Fryer: The introduction of Western Science and Technology into Nineteenth-century China*, Cambridge, Mass., Harvard University Press

（論文）

或問花子 2000 「東学西漸の研究」『或問』第1号 2-15頁

John Fryer, 1890. "Scientific terminology: present discrepancies and means of securing uniformity", *Records of the General Conference of the Protestant Missionaries of China Held at Shanghai, May 7-20, 1890*, Shanghai, pp.531-549

9. 本文や注の中で、文献に言及するときには、或問太郎（2000:2-15）のように指示する。同一著者による同年の論著は、2000a、2000bのように区別する。

内田慶市（keiuchid@pp.iij4u.or.jp）

沈 国威（guowei@ipcku.kansai-u.ac.jp）